

建築主：本 埜 村
設 計：株式会社 榎本建築設計事務所
施 工：古谷建設株式会社

まちの大きなリビングルーム

所在地：印旛郡本埜村滝野3-4

本埜ファミリア館



正面全景

この建築は、都市基盤整備公団が近年開発してきた千葉ニュータウンの滝野地区にある。時代の激しい変化に強く影響を受けながらも開発が進められてきたこの一帯だが、今や大きな空を持つのびやかなまちのスケール感が日本的ではない、そんな台地上に展開する新しいまちである。その一画の角地が敷地である。矩形が連続する端正なプロポーションが際立ち、木部と黒い角波の外壁のコントラストや門型庇フレームの陰影が印象的な、多世代の利用を想定した図書館および多目的な公共施設である。

この建築の最大の特徴は集成材によるラーメン構造に加えて室内の仕上げ材に木材を多用したことだ。内部は複数のライトコートや随所に設けられたハイサイドライトの構成によって大きな空からの日光利用が可能となり、機能毎の領域性を確保しながら隅々まで明るい。そして互いに連続する内部空間を介してお互いの営みを互いに感じ合いながら一時を過ごすことができる、まさに新旧の住民の交流拠点である。

大断面集成材がもたらす豪快な構成が必ずしも高齢者や子ども達のスケールになじまないという異論もあるだろう。目障りな過剰な照明器具も気にはなる。その分、ここに生み出され



図書室

た今後の空間の使われ方が問われることになる。そこに設計者がどのように関わってゆけるのかは定かではないが、いずれにしても、今後外構が整備され、樹木等が成長することによって、ヒューマンスケールが失われがちなニュータウンの景観や生活空間のなかで、まちの大きなリビングルームのようなコミュニティセンターとして熟成していくことが予感される秀作である。
(岩村和夫)